

「第17回奨励賞・功労賞」記念特別号

日本女性科学者の会 NEWS



The Society of Japanese Women Scientists

No.111 Special Issue, 2012.9

I. 第17回日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式に寄せて

日本女性科学者の会 会長 大倉 多美子

第17回(2012年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式ならびに奨励賞受賞記念講演会が、去る6月17日(日)午後2時より学士会館で執り行われました。梅雨の最中でしたが、心配しておりました天候も何とか雨模様とはならず済み安堵いたしました。

本年度の奨励賞には『受精卵における細胞内リモデリングメカニズムの研究』の研究課題で応募された佐藤美由紀氏に、功労賞には当会に長年に渡り貢献されました田中成子氏に贈呈されました。ご両名のプロフィールは「奨励賞・功労賞」記念特別号であります本ニュースに詳しく掲載されておりますのでご一読いただければと存じます。

奨励賞は年々応募者の研究業績レベルが高くなってきており、選考に際して外部評価委員の方々が一層とエネルギーを費やさざるを得ないほどの大変な激戦となっております。これまでの奨励賞受賞者は受賞後にますます活躍され、驚くべきことに約65%の方が教授のポストを獲得されておられます。この事実は、本会の奨励賞が学術領域において着実に高い評価を受けていることを示しております。それ故、本会が我が国における質の高い女性科学者の育成に一役を担っているものと、大いに確信いたしている次第でございます。

本会奨励賞創設の経緯については、「女性を対象にする賞がもっとあって良いのではないか」との東北支部理事の発

案と多くの会員方からの要望により、1995年に会費と寄付を基金として設立され、翌年に第1回の贈呈式を行いました。さらに賞設立2年後の1997年には、科学教育者の守田純子氏のご遺志により「女性科学者育成のために」と1,000万円のご寄付を本会にお寄せいただきました。以来、賞基金を特別枠として設定し、今年度無事第17回目の贈呈式を行うことができましたことは喜びに堪えません。このことは偏に会員各位はもとより、高い志を持たれた諸先輩方の熱意とお力添えによるものと思っております。SJWSとしてさらなる充実を図り、努力を致していく所存でございます。つきましては常日頃よりご支援・ご高配をいただいております各界の方々のお陰と心より深謝申し上げますと共に、今後はこの賞が末永く継続していくために、更なる尚一層の皆様方のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

また当日はご多忙中にもかかわらず、文部科学省生涯学習政策局より田田隆史局長、内閣府男女共同参画局より岡島敦子局長、国立女性教育会館より内海房子理事長、大学女性協会より阿部幸子会長の方々にご列席を賜り、賞贈呈式ならびに懇親会にてご丁寧なるご祝辞を頂戴いたしました。この紙面をお借りいたしまして、深く感謝の意を表します。今後とも当会の発展のために尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年度は総会におきまして佐々木政子元会長、遠山嘉一、武井たつ子、佐渡昌子、斎藤恭子、荒谷美智の各氏に名誉会員の称号を授与させていただきました。今後とも尚一層のご指導をいただけますようお願い申し上げます。

目次

I. 第17回日本女性科学者の会奨励賞・功労賞贈呈式によせて……………	1
II. 第17回奨励賞・功労賞受賞者のプロフィール…	2
III. 第17回(2012年度)日本女性科学者の会賞選考経緯……………	3
IV. 奨励賞受賞者の講演要旨・挨拶……………	4
V. 功労賞受賞者の挨拶……………	6
VI. 第18回『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項……………	7
VII. 活躍する会員/東日本大震災関連……………	8
VIII. 学術大会のご案内……………	9
IX. 2011・2012年度事業報告、総会報告 その他 ……	10
X. 支部だより……………	11
XI. 第17回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプションと総会風景……………	12



功労賞受賞者 田中(安)氏

大倉会長

奨励賞受賞者 佐藤氏

Ⅱ. 第17回奨励賞・功労賞受賞者のプロフィール

第17回日本女性科学者の会 奨励賞受賞



佐藤 美由紀 氏
(SATO MIYUKI)

45歳

博士(理学)
群馬大学 生体調節研究所
助教

研究課題：受精卵における細胞内リモデリングメカニズムの研究

賞贈呈理由：線虫を対象として解析を行い、受精前後の膜ダイナミクスや膜成分の再構築等の新しい現象を見出し、かつ、それを制御する新規因子の同定に成功した。特に卵母細胞の細胞膜に発現する一群の膜タンパク質が受精に伴い選択的に分解され、細胞膜の成分が再構成される現象を発見した。さらにミトコンドリアゲノムの母性遺伝の仕組みを解析し、自食作用による父性ミトコンドリアの分解がそのメカニズムの一端であることを明らかにした。本研究は、生命を再構築する受精現象に分子遺伝学を導入することにより、細胞生物学的知見を個体の高次機能解明に発展させた先駆的研究である。

略 歴：1994年、東京大学理学部生物学科卒業。1996年、東京大学大学院理学系研究科 修士課程修了。1999年、同大学院同研究科 博士課程修了、博士(理学)取得(東京大学)。1999～2002年、理化学研究所 基礎科学特別研究員・協力研究員。2002年～2005年、ラトガーズ大学博士研究員。2005年～2007年、日本学術振興会特別研究員(PD、群馬大学生体調節研究所にて)。2007年～2008年、群馬大学生体調節研究所 グローバルCOE研究員。2008年～2010年、同大学同研究所 特任講師。2010年6月より助教。

連絡先：〒371-8512 群馬県高崎市昭和町3-39-15 群馬大学 生体調節研究所
TEL 027-220-8842 FAX 027-220-8844
E-mail: m-sato@showa.gunma-u.ac.jp

第17回日本女性科学者の会 功労賞受賞



田中(安) 咸子 氏
(TANAKA (YASU)
MINAKO)

77歳

農学博士
NPO法人キャリアー・
ワールド理事長、
NPO法人藤沢市市民
活動推進連絡会理事長

賞贈呈理由：田中会員は東京薬科大学女子部(当時)を卒業後、民間企業にて研究の道を進み、その間、女性薬剤師としては我が国初めてのフルブライト奨学生として米国へ国費留学を果たした。米国ウィスコンシン州立大学大学院(薬学部)を修了、カナダ国立ゲルフ大学給費・社費研究生として研究、食品物性の基礎研究で農学博士を取得、一貫して食品物性や界面活性剤物性関連の基礎研究に携わり、企業における基礎研究者、管理統括者として数々の功績を残した。本会においては、創立の初期の頃からの会員であり、長年にわたり理事・監事を務め、女性研究者の地位向上・本会発展の為に寄与した。また、NPO法人キャリアー・ワールドを設立し、男女共同参画社会の実現に向けての活動にも長期にわたり取り組んだ。現在も女性研究者育成の支援活動を活発に続けており、女性科学者の地位向上・環境改善のために大きく貢献している。

略 歴：1957年、東京薬科大学女子部卒業、同年ライオン株式会社入社。その後、1962年、フルブライト奨学生として米国へ留学。1964年、米国ウィスコンシン州立大学大学院(薬学研究科)修了、農学博士取得。1970年、カナダ国立ゲルフ大学給費研究生。1987年、ライオン株式会社応用研究所所長。1995年、ライオン株式会社定年退職、同年、お茶の水女子大学理学部非常勤講師。1996年、文部科学省学術審議会専門委員、同年、藤沢市女性行動計画推進協議会会長、かながわゆめ国体藤沢市実行委員会常任委員。1998年、藤沢市総合計画審議会委員。1999年、藤沢市市民電子会議室運営委員長、同年、藤沢市教育委員会委員。2001年、藤沢市教育委員長。2007年、藤沢市社会福祉協議会評議委員。2008年、東海大学学長室男女共同参画推進アドバイザー。

連絡先：〒251-0038 神奈川県藤沢市鶴沼松が岡4-6-9 TEL 046-626-2569

Ⅲ. 第17回(2012年度)日本女性科学者の会 賞選考経緯

第17回日本女性科学者の会奨励賞の応募者を自然科学系研究者より広く公募した。18件の応募があった。内訳は、物理・数学分野0名、化学分野4名、生物・生化学分野3名、医学・薬学分野10名、その他分野1名であった。各研究分野で複数の外部評価委員に評価を依頼した。その審査意見を参考にして、本会理事会で慎重な審議を行った結果、今年度は、生物・生化学分野の佐藤美由紀氏1名を決定した。

今年度の応募者数は昨年と同程度であったが、応募者各人の研究業績は大変すばらしく、各分野を先導する研究者であった。年々応募者の研究業績レベルは高くなっており、どの応募者からも研究に対する強い熱意が感じられるようになっているが、今年度は佐藤美由紀氏の業績が突出していたため、本会の奨励賞にふさわしいと判断された。

佐藤美由紀氏の研究テーマは「受精卵における細胞内リモデリングメカニズムの研究」である。同氏は、線虫の受精前後の膜ダイナミクスや膜成分の再構築などを制御する因子を同定することに成功した。さらに、卵母細胞の細胞膜に発現する膜タンパク質群が受精に伴い選択的に分解され、細胞膜の成分が再構成される現象を発見した。分子遺伝学を駆使してミトコンドリアゲノムの母性遺伝の仕組みを解析し、生命体の高次機能の解明への発展が期待できるような、先駆的な研究を進めていることが評価された。

功労賞は、「①自然科学の発展、学術研究に顕著

な功績のあった女性科学者、②女性科学者の研究推進・地位向上に寄与した者、③本会会員であり、会のために尽力し顕著な功績のあった者のいずれかに該当する者」が会員から推挙され、本会理事会で決定される。今年度は、本会前監事、NPO法人キャリア・ワールド理事長、NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会理事長、田中(安) 咸子氏が推薦された。

田中氏は、民間企業で研究を継続し、女性薬剤師としては我が国初のフルブライト奨学生としてアメリカに留学、さらにカナダ国立ゲルフ大学給費／社費研究生として、食品物性の基礎研究で農学博士号を取得した。その後も一貫して食品物性、界面活性剤の基礎研究にあたり、企業における基礎研究者、管理統括者として多大な功績を残した。また、本会創立初期から会員として参画し、長年にわたり理事・監事を務め、女性研究者の地位向上のため、そして本会の発展のために尽力した。さらにNPO法人キャリア・ワールドを設立、男女共同参画社会の実現に向けての活動に長期にわたり取り組んでいる。現在も、女性研究者の支援活動を継続し、女性科学者の地位向上と環境改善に努めている。

本会理事会で審議の結果、学術研究に顕著な功績があり、女性科学者の研究推進・地位向上に大きく貢献し、さらに本会発展のために長年に渡り尽力した田中氏に本会より功労賞贈呈を決定した。

(文責 賞担当理事 佐藤 縁)



受精卵における細胞内リモデリングメカニズムの解明

群馬大学・生体調節研究所・細胞構造分野

佐藤 美由紀

受精は生命が誕生する瞬間であり、それにより卵子は受精卵（胚）へと大きく変化する。しかし、この時に細胞内の構造に実際にどのような変化が起きているのかに関する知見は非常に限られており、現象の観察からその分子メカニズムにまで踏み込んだ解析の行える実験系の導入が必要であった。私たちは優れたモデル生物である線虫*C. elegans*を用い、分子遺伝学と細胞生物学を組み合わせた解析を行うことで、この初期胚発生期の細胞の変化を明らかにしようと試みた。その結果、受精直後には卵子や精子から持ち込まれた特定のタンパク質やオルガネラ（細胞内小器官）がリソソーム分解系を介して積極的に分解され、それによって細胞を構成する成分の再編成が促進されていることが明らかとなってきた。

リソソームは内部に消化酵素を豊富に含むオルガネラであり、細胞内成分の主要な分解系の一つである。タンパク質などの分解を受ける基質をリソソーム内部に運ぶためには膜の変形や融合を介した輸送システムが必要であり、主にエンドサイトーシスとオートファジーの経路が知られている（図1）。エンドサイトーシスは細胞膜上のタンパク質や細胞外の成分を膜で囲まれた小胞を介して内部に取り込むシステムである。線虫受精卵においてエンドサイトーシスの活性を可視化すると、受精直後の1細胞期においてエンドサイトーシスが活性化され、またエンドソームの大きさや位置もダイナミックに変化することを見出した。このエンドサイトーシスにより、卵子の細胞膜に存在していた一群の膜タンパク質が選択的に細胞内へ取り込まれ、リソソームへと輸送され分解されていた。細胞膜は細胞間シグナルを受容する場所であり、様々なシグナリング関連因子が存在している。胚発生の開始期にはこれら細胞膜成分を卵子型から胚型に置換する必要があるのではないかと考えられる。

また、もう一方の経路であるオートファジーと

は、細胞が自分自身の一部（タンパク質や細胞内小器官）をオートファゴソームという膜で包みこみ、リソソームと融合させることで分解するシステムである（図1）。オートファジーの活性をモニターすると、こちらにも1細胞期において一過的な誘導が観察された。おもしろいことに、オートファゴソーム膜は受精卵の非常に限られた場所のみ現れ、受精によって侵入した精子核のごく近傍に多数のオートファゴソームが形成されていた。このオートファゴソームに取り込まれる標的を探索したところ、受精によって精子から持ち込まれる父方のミトコンドリアが選択的に取り込まれていることが判明した。ミトコンドリアは真核細胞においてエネルギー生産を担う重要な細胞内小器官である。また、ミトコンドリアは細菌の共生を起源とするオルガネラであり、核ゲノムとは別の独自のゲノムDNA（mtDNA）を持っている。mtDNAの変異は、骨格筋・脳などに異常を生じるミトコンドリア病の原因となることが知られているほか、糖尿病の発症やガン細胞の悪性度にも深く関与している。興味深いことに、性を持つ多くの動植物においてmtDNAは必ず片親から、多くの場合母方のみから遺伝する“母性遺伝”の様式をとることが広く知られている。ところが、mtDNAが母性遺伝する具体的なメカニズムについては実ははっきりとわかっていなかった。そこで、オートファジー経路が阻害されるような変異体のmtDNAを調べてみたところ、通常は発生初期に分解されてしまう父方mtDNAが次世代の個体にも検出された。このように線虫においては、父方ミトコンドリアとそこに含まれるmtDNAがオートファジーで分解されることによりmtDNAの母性遺伝が成立していることが明らかとなり、mtDNA母性遺伝の謎の一部を解明することができた（図2）。しかし一方で、なぜ父方のミトコンドリアやmtDNAを分解する必要があるのか、またどのように父方ミトコンドリア

のみを認識しているのかなど、依然として多くの疑問が残されている。今後、父性ミトコンドリアを認識するメカニズムの解明や、ほ乳類など様々な生物における検証を進めることにより、父性ミトコンドリア分解の生理的意義を明らかにしていきたいと考えている。また同時に、エンドサイトーシスを発生の時期特異的に制御する分子メカニズムについても解析を進め、初期胚におけるリソソーム分解の制御機構と胚発生における重要性を明らかにしたいと考えている。

<謝辞>

最後に、この度日本女性科学者の会奨励賞に選出していただき、このような執筆の機会をいただきましたことに心より感謝いたします。この研究は群馬大学・佐藤健教授とともに行ったものであり、教授をはじめ研究室のメンバーの様々な面からのサポートに深く感謝します。また、研究初期にご支援いただいたラトガーズ大学・Barth Grant博士、群馬大学・原田彰宏教授（現大阪大学）にも深謝いたします。

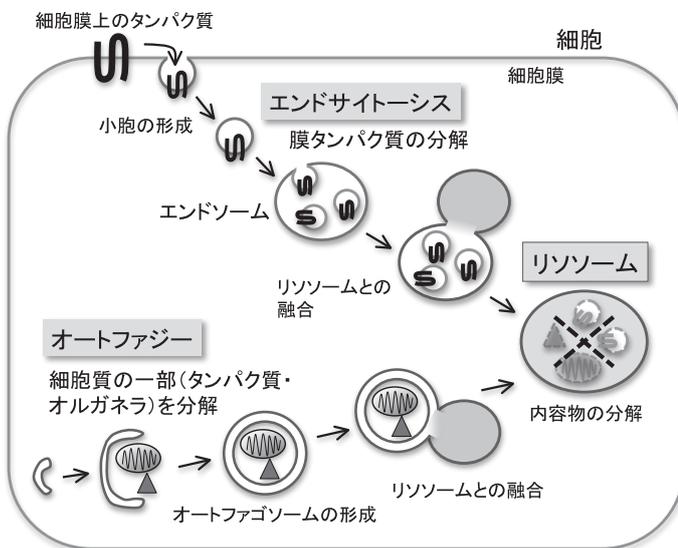


図1. リソソームへの輸送経路

リソソームは細胞内成分の主要な分解系の一つである。エンドサイトーシス経路においては、細胞膜タンパク質や細胞外成分が小胞によって細胞内部へ取り込まれ、エンドソームを経てリソソーム内部へ運ばれる。オートファジー経路では、細胞質の一部（タンパク質やオルガネラを含む）がオートファゴソーム膜によって囲い込まれ、さらにリソソームと融合することで内容物を分解するシステムである。

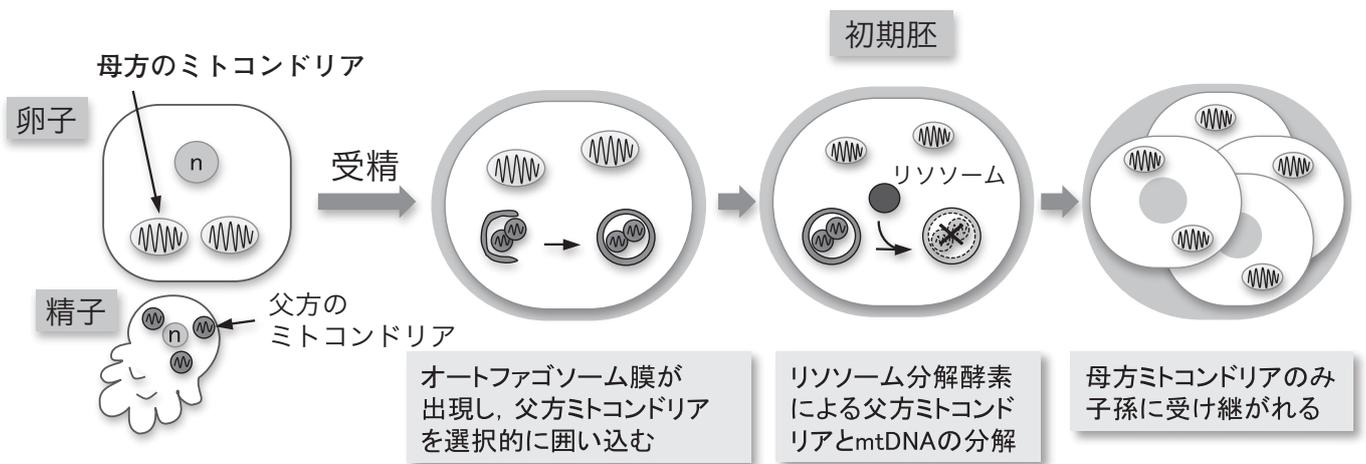


図2. オートファジーによる父方ミトコンドリアの分解

受精卵において局所的にオートファジーが誘導され、父方ミトコンドリアが選択的に取り込まれ分解される。それにより、母方ミトコンドリアとそのゲノムのみが子孫に伝わる。

科学研究者にとっての男女共同参画を追いかけて

NPO法人キャリアー・ワールド理事長、NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会理事長

田中（安） 咸子

日本では、古来からおめでたいこととされている喜寿の年に日本女性科学者の会の功労賞をいただけたことを大変光栄に思います。日本女性科学者の会は1958年に創立されましたから、ほぼ私が大学を卒業して社会人になったのと同じくらいのキャリアーです。

さて、今回は1957年から1995年の私の研究者としてのキャリアーを語るのではなく、日本女性科学者の会の会員としての経験、特に男女共同参画との関係について記してみたいと思います。まずもっとも大事なきっかけは日本国憲法が1946年に制定されたことです。私たちは新憲法のもと男女共学第1世代と言われました。男女共学は現在も続いています。1947年の教育基本法にも基づいています。私は戦争に負けた国アメリカに留学してみたいとの思いで、1962年にフルブライト留学しました。世界をリードしていたアメリカの大学院での研究生生活を経験すると同時に、男女平等にもふれました。日本の男女平等は国連に指導してもらったといっても言い過ぎではないでしょう。まず第1ステップが1975年の国連の国際婦人年をもとに日本での男

女平等の法整備が進んできました。1986年の男女雇用均等法は、私の職場でも定年の男女差別の撤廃を実現しました。初任給の男女差別も無くしました。理工系ながら大学の教養課程で法学を勉強した私には法というものがいかに私たちの日常生活に大きな影響があるものかを知らせてくれました。次の第2ステップが1995年の国連第4回女性会議、1999年の男女共同参画基本法、内閣府のナショナルマシーナリーとしての男女共同参画大臣や局の設置でした。この第2ステップでは、日本女性科学者の会はNGOとして、国際婦人年連絡会の加盟団体として50近い他の女性団体と連帯して活動してきました。私はこの第2ステップに理事として深く関わりました。そしてついに第3ステップとして2011年に第3次男女共同参画基本計画に科学技術・学術分野が加えられました。私はこれで日本女性科学者の会の後輩たちに後を継いでもらえると安心しました。後輩たちがますます頑張ってくれて各々の職場で研究実績を上げてくれるよう願ってやみません。

新企画

「平成24年度東京ウィメンズプラザフォーラム」への 皆様のご参加をお願いします

開催日時：11月9日（金）18：00～20：30（SJWSの割当て時間）

場 所：東京都渋谷区神宮前5-53-67 東京ウィメンズプラザ「視聴覚室」

来る11月9～10日、「平成24年度東京ウィメンズプラザフォーラム」が開催されます。全35参加団体の中にSJWSも加わり、実施企画名「サイエンスネットワークを広げよう！科学の楽しさを知ろう」で参加します。表参道という地の利を生かし、対象としては東京近郊の中高生とその保護者、大学生、大学院生、現役研究者、そしてSJWS関連の方々にはホームカミングのようにお越しいただける場を提供したいと考えています。身近な観察対象となっている宇宙科学、食品科学、生命科学分野等で活躍する女性研究者をお招きして、聴衆と双方向の話が出来る機会となるよう具体的なプランを検討中です。

第18回『日本女性科学者の会奨励賞』候補者募集

日本女性科学者の会は「女性科学者の友好を深め、各研究分野の知識の交換をはかり、女性科学者の地位の向上を目指すとともに、世界の平和に貢献すること」を目的として1958年4月に設立されました。以来、公開講演会、公開シンポジウムなどの活動を行ってきています。2004年には日本学術会議19期第4部登録学術団体となり、現在は日本学術会議協力学術研究団体として活動しています。本会は女性研究者を援助、支援するために1995年から「日本女性科学者の会奨励賞」を設け、これまでに34名の方々が受賞されています。

第18回（2013年度）につきまして下記のように募集いたします。

『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項

対象者：理系分野（医歯薬・理工・農、等）分野で研究業績をあげ、その将来性を期待できる者であり、かつ本会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会会員（応募時入会可）。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職（教授、部長等）にある方はご遠慮ください。

奨励賞：賞状および奨励金20万円（年1～3件）。
本会総会（例年6月）において贈呈。

応募期間：2012年11月1日（木）～11月16日（金）必着
本会ホームページ（<http://www.sjws.jp/>）から応募書類をダウンロードできます。
賞連絡事務局への応募用紙請求は、お葉書でお願いします。

決定時期：2013年3月末頃（郵便にて本人宛通知）

応募書類送付先：〒305-8566 茨城県つくば市東1-1-1
中央第6産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門
日本女性科学者の会賞連絡事務局 佐藤 緑 理事宛
F A X：029-861-6177
E-mail：award-sjws@m.aist.go.jp

※入会申し込みも受け付けます。なお、電話でのお問い合わせはご遠慮ください。

ポスター賞受賞報告

本会若手会員、新田明美氏が、2012 American Geriatrics Society (AGS) Annual Scientific Meeting International Poster Session Awardeesに選ばれました。

(http://www.americangeriatrics.org/annual_meeting/attendees/2012presidential/)

“Exacerbation of dementia after the earthquake and tsunami in Japan”

Akemi Nitta, Katsutoshi Furukawa, and Hiroyuki Arai, Institute of Development, Aging and Cancer
Tohoku University, Sendai City, Japan

新田 明美

(東北大学加齢医学研究所 脳科学研究部門 老年医学分野所属)

2012年度のアムリカ老年医学会(AGS)主催の年次学術集会(Annual Scientific Meeting)が5月2日から5日までの日程で、ワシントン州シアトルで開催された。筆者は「東日本大震災後の認知症増悪に関する研究」のタイトルで、被災地域にある病院に通院するアルツハイマー病患者を対象に、震災3ヶ月後(以下震災後)の環境変化(悪化)による認知機能及び行動・心理症状(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia、以下BPSD)の変化についてポスター発表を行った(写真)。被災しなかった集団と比較して、被災したが避難所に行かなかった集団や被災後避難所生活を強いられた集団、すなわち震災後の環境が悪化する群ほど、震災前と比べ震災後のMini-Mental State Examination(見当識、記録、注意、計算、視空間構成、言語と異なる領域を評価する認知機能検査、以下MMSE)の点数が悪化した。またBPSDの指標であるNeuropsychiatric Inventory Questionnaire(以下NPI-Q)も同様、震災前と比べ震災後では悪化が見られた。さらにそれぞれの検査の下位項目の点数の変化をみると、MMSEでは震災後の状況が悪化するにつれ、時間、場所、計算、言語の項目で震災前後の点数差が大きく、同様にNPI-Qの下位項目の震災前後の点数差においても、震災後の状況が悪化するにつれ大きくなった。特に被災後避難所生活を強いられた集団では、攻撃性、うつ、情緒安定性の項目で悪化がみられた。

今回の International Poster Session Award 受賞は、世界中に報道され記憶に新しい未曾有の東日本大震災後の状況下における高齢認知症患者に関する研究であったこと、さらに被災地の避難所等の生々しい写真を交えながらセッションを行ったことで多くの参加者に注目された結果と思われる。我が国に

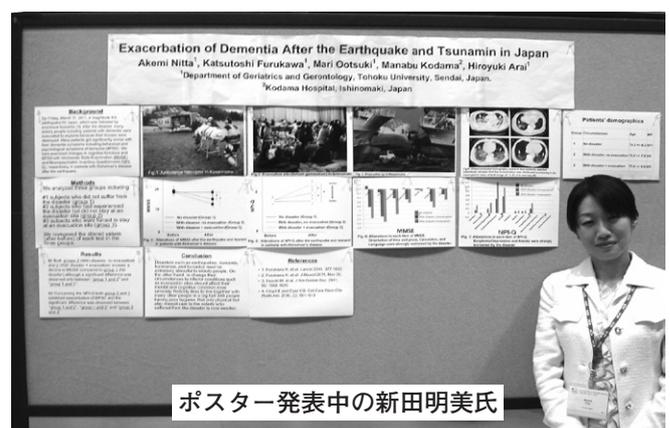
においても、首都直下や東海～南海にかけて大規模地震が発生する可能性が指摘されていることから、災害弱者であり支援ニーズの高い高齢者の医療体制をどう構築するかは今後の大きな課題である。

本研究の結果は、高齢者の災害医療における精神科医療対策、特に災害後の環境変化がもたらす高齢者の認知機能、心理行動的症状に関するケア支援を行っていく上でも重要な基礎データになると考えられた。筆者の所属する老年医学分野では、平成24年度から厚生労働省「認知症対策総合研究事業」として東日本大震災被災高齢者における認知機能と日常生活動作の前向きコホート研究－仮設住宅に住む高齢者訪問調査－を進め、宮城県気仙沼地方の仮設住宅に住む被災高齢者の認知機能と日常生活動作の長期的な予後観察研究を計画している。

今回本研究の発表の機会を与えて頂き、また研究面でも御指導を戴きました東北大学加齢医学研究所 脳科学研究部門 老年医学分野の荒井啓行教授、古川勝敏准教授に心より感謝申し上げます。

参考文献:

Furukawa K, Arai H. Earthquake in Japan. Lancet 2011;377:1652



参加報告

「原子力・生物学と物理」プレ・コンファレンス ～私たちに何ができるか～
(URL: <http://jein.jp/pre-nbp2012.html>)

平成24年8月7日、京都大学にて標記プレ・コンファレンスが開催されました。

お気付きのように、この会はSJWSとゆかりの深い湯川秀樹博士の流れをくむ物理学研究者が中心のクロズドの集まりで、当日のコンファレンスには元・物理学会会長、京大名誉教授 佐藤文隆先生をはじめ、前・JST理事長、東京大学名誉教授 北澤宏一先生（福島原発後民間事故調査報告書を取りまとめられた委員長）、東大大学院教授 下浦亨先生、JA白河・薄井惣吉氏、福島県災害対策本部・片寄久巳氏、被災され京都市に避難されている方々、マスコミら、50人余が出席されました。私は「福島医科大学での医療活動と放射線量実測」について、one voiceでの発信に留意する大学管理室の資料に加えて、キャンパス内での実測データを織り交ぜてお話をさせて頂きました。本コンファレンスでは様々な立場からの活動報告と、科学的に信頼できるデータ収集の工夫等が紹介され、それらをもとに科学者が何をなすべきか、検証されたデータをどのようにわかりやすく発信していくか、そして当時はなぜ必要な情報が迅速に公開されなかったか、という議論が沸騰しました。

また、福島の産業を支援するために、本コンファレンス参加者が中心となって野菜・果物を積極的に購入するグループを立ち上げよう、という心温まるご提案も出てきました。

なお、SJWSでは震災後復興支援を計画中ですの、科学者としての視点に立った多くの方々からのご意見、ご支援を求めています。支援活動へのご寄付と併せて、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。
(文責 本会理事 本間美和子)

VIII. 学術大会のご案内

以下のように第9回学術大会を開催いたします。奮ってご参加ください。

日本女性科学者の会 第9回学術大会

日 時：2012年10月8日（月・祝日） 主 催：日本女性科学者の会
場 所：アルカディア市ヶ谷 協 賛：科学技術振興機構（予定）
参加費：2000円（非会員3000円、学生1000円） 後 援：男女共同参画学協会連絡会（予定）
茶話会：2000円（予定）

～プログラム～ 受付9：30より

10：00～12：00 セッション①：一般演題発表 ポスター展示（一般演題募集）

13：00～15：10 セッション②：テーマセッション「女性研究者のステップアップに必要なアイテム」

大会長挨拶 野呂知加子 日本大教授（SJWS理事）

ご挨拶 板東久美子 文部科学省高等教育局長

【研究費】「戦略的に研究費をとる」塩満典子 JST科学技術振興調整費業務室前室長
「さきがけ研究と私」藤井紀子 京大教授（SJWS理事、1998年度SJWS奨励賞受賞）
「企業研究者と最先端・次世代研究開発支援プログラム」

小杉尚子 NTTコミュニケーション科学基礎研究所研究主任

【奨励賞】「SJWS奨励賞と私」近藤科江 東工大教授（SJWS理事、2008年度SJWS奨励賞受賞）
「資生堂グラント受賞者の活躍」蓑田裕美（株）資生堂学術室
「ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞を受賞して」

戸張靖子 早稲田大研究助手（2007年受賞者）

【海外体験】「海外体験—フランスで博士課程—」新倉ちさと 物質・材料研究機構主任研究員
会長挨拶 大倉多美子 慶応大（SJWS会長）

15：20～17：00 茶話会：ポスターセッション

【2012年度総会報告】

2011年6月17日(日)13:00~13:40、学士会館301号室において、2012年度の総会が開催された。出席29名、委任状129名で総会が成立したことが橋本総務担当理事から報告され、会長が開会の挨拶をした。

- 議題：1. 2011年度 会務ならびに事業報告
 2. 2011年度 収支決算と監査報告
 3. 2012年度 事業計画案
 4. 2012年度 予算案
 5. 規約の改正
 6. 理事退任、新任理事承認
 7. 名誉会員称号授与
 8. 支部活動報告

2011年度会務ならびに事業報告（以下に掲載）、2011年度収支決算、2012年度事業計画案、2012年度予算案がそれぞれ承認された。橋本隆子・喜多淑子両理事退任と新任理事の就任が承認された。会長が佐々木政子元会長、遠山嘉一、武井たつ子、佐渡昌子、斎尾恭子、荒谷美智の各氏に名誉会員称号を授与した。東北支部と関西支部からの活動報告がなされた。

【新任理事】 永澤秀子、近藤科江

(文責： 大倉多美子)

【2011(平成23) 年度会務ならびに事業活動報告】

1. ニュースの発行
 - ・2011年9月 109号(第16回「奨励賞・功労賞」記念特別号)
 - ・2012年3月 110号
2. 日本女性科学者の会学術誌の電子化ならびに刊行
 - ・2012年3月 第12巻
3. 会員名簿発行
 - ・2012年3月31日発行
4. 総会
 - 日時：2011(平成23)年6月19日(日) 13:00~13:40
 - 場所：学士会館
 - 出席：出席者：28名、委任状137名
合計165名で会則9条により成立
 - 議事：
 - (1)会長挨拶
 - (2)2010年度会務ならびに事業報告
 - (3)2010年度収支決算と監査報告
 - (4)2011年度事業計画案
 - (5)2011年度予算案
 - (6)新理事・監事の承認
 - (7)支部活動報告(支部理事)
5. 第16回(2011年度)奨励賞・功労賞贈呈式並びに奨励賞受賞記念講演会、懇親会
 - ・日時：2011(平成23)年6月19日(日) 14:00~17:00
 - ・場所：学士会館
 - ・奨励賞受賞者
杉浦 美羽会員
(愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター)
 - 長瀬美樹会員(東京大学大学院医学系研究科)
 - ・功労賞受賞者
橋本 葉子氏
(吉岡彌生記念館館長、東京女子医科大学名誉教授)
 - 大隅 正子会員
(認定NPO法人総合画像研究支援理事長、日本女子大学名誉教授)

6. 理事会(6回)
 - 2011年7月23日(土) アルカディア市ヶ谷
 - 2011年9月11日(土) 学士会館
 - 2011年12月18日(日) 学士会館
 - 2012年3月18日(日) 学士会館
 - 2012年4月22日(日) 学士会館(規約改定臨時理事会)
 - 2012年5月27日(日) 学士会館
7. 例会(学術誌 第12巻1号p.50-55, NEWS No. 110 p.6-8参照)
 - ・日時：2011年12月18日(日) 14:15~18:00
 - ・場所：学士会館
 - ・参加者：30名
 - ・司会：尾崎 美和子理事
 - ・開会挨拶：大倉 多美子会長
 - ・招待講演：融合研究への挑戦！
 - (1)宮本 悦子会員(東京大学 特任准教授)
「パーソナルゲノム医療時代へ向けた
がん融合研究」
 - (2)香山 綾子会員(理化学研究所 研究員)
「モデル生物ショウジョウバエを用いた
エネルギー代謝制御機構の解析
—肥満・糖尿病などの代謝疾患の治療に向けて—」
 - (3)加知 千裕会員(東邦大学 講師)
「光るランタニド錯体の開発とその応用
—DNAとの複合体を目指して—」
 - (4)貝原 祥子会員(慶應義塾大学 助教)
「高安全性体内埋め込み材料の開発」
 - (5)合田(日向寺)祥子会員(東海大学 講師)
「計算化学的手法による生体高分子の機能解析」
8. 新春懇談会(NEWS No. 110 p.2-5参照)
 - ・日時：2012年1月22日(日) 13:00~17:30
 - ・場所：アルカディア市ヶ谷
 - ・出席者：33名
 - ・司会：本間 美和子 SJWS理事(福島県立医科大学)
 - ・開会挨拶：大倉 多美子 SJWS会長(お茶の水女子大学)
 - (1)鈴木 益子先生(仙台真菌学研究所副代表)
東北地方への復興支援
 - (2)大隅 典子先生(東北大大学院教授)
教育・研究の場が求める復興支援
 - (3)荒谷 美智先生(六ヶ所村文化交流プラザスワニー
文化・教育アドバイザー)
六ヶ所村等、原子力立地地域における復興の考え方
 - (4)宇野 賀津子先生
(財)ルイ・パスツール医学研究センター)
低線量放射線の生物への影響と食の重要性
 - ・懇親会・懇談会：16:00~17:30
9. 第17回(2012年度)「日本女性科学者の会奨励賞・功労賞」の選考
 - ・奨励賞応募者：18
 - ・奨励賞受賞者：佐藤 美由紀会員(博士(理学)
群馬大学 生体細胞研究所 助教)
 - ・研究課題：受精卵における
細胞内リモデリングメカニズムの研究
 - ・功労賞受賞者：田中 成子会員(農学博士、
NPO法人キャリアーワールド理事長、
NPO法人藤沢市民活動推進連絡会理事長)
10. 数野美つ子先生を偲ぶ会
 - (SJWS、東邦大学理学部物理学科、日本女性技術者フォーラム共催)
 - ・日時：2012年3月11日(日) 13:00~15:00
 - ・場所：学士会館 202号室

- ・出席：85名
- ・司会：小川了（東邦大学理学部教授）（敬称略，以下同）
- ・式次第：

- (1)献花
- (2)黙祷
- (3)代表挨拶 大倉 多美子（SJWS会長）
渋谷 寛（東邦大学理学部教授）
- (4)弔辞 大島 範子（SJWS前会長）
勝尾 双葉（独立行政法人情報通信研究機構）
三角 尚治（日本大学生産工学部）
- (5)献杯 佐渡 昌子（SJWS会員、東邦大学薬学部元教授）
- (6)直会
- (7)思い出を偲ぶ

中村 立子（日本女性技術者フォーラム（JWEF））
荒谷 美智（SJWS、六ヶ所村文化交流プラザスワニー）
鈴木 益子（SJWS第4代会長）（当日、急遽欠席）
佐々木 政子（SJWS第5代会長）
中台 貴子（卒業生）
山中 佳枝（卒業生）
畑田 智子（卒業生）
篠崎 浩子（卒業生）

(8)2011.3.11東日本大震災一周年黙祷（14：46）

(9)ご遺族挨拶

石川芳子様（数野美つ子先生姉上）

(10)閉会

11. 女子中高生夏の学校2011
 - ・Part 1 2011年8月18日（木）
 - ・Part 2 2011年10月22日（土）
（NWECフォーラム期間内で開催）への参加
12. 第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
（2011年10月13日筑波大学）への参加
 - ・SJWSに関するポスター発表
13. 後援：2011年度高専女子フォーラム
（2012年3月27日：学術総合センター中会議室）への参加
14. 支部活動報告（支部理事）

【2012年度事業計画】

1. 日本女性科学者の会学術誌 刊行（Vol.13 No.1）
2. 日本女性科学者の会ニュース 発行（111号、112号）
3. 定期総会 2012年6月17日（日）学士会館
4. 第17回（2012年度）奨励賞・功労賞贈呈式並びに奨励賞受賞記念講演会
・2012年6月17日（日）学士会館
5. 理事会 5回（7月、9月、12月、3月、5月）
6. 学術大会の開催（2012年10月8日（予定））
7. 新春懇談会の開催
8. 第18回（2013年度）「日本女性科学者の会奨励賞」の募集と選考ならびに「日本女性科学者の会功労賞」の選考
9. 女子中高生夏の学校（2012年8月9日（木）～11日（土））への参加
10. 第10回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（2012年10月7日（日））への参加
11. 東日本大地震被災地支援についての検討
12. 会長選挙に伴う選挙管理委員会の設置（12月）
13. 会長の選出（2013年5月）

X. 支部だより

東北支部：

A 青森地区：

- 1、2011年5月18日（水）「小惑星イトカワのサンプル持ち帰り探査機『はやぶさ』の超技術」読み聴かせ、六ヶ所村立泊小学校6学年、六ヶ所
- 2、2011年6月13日（月）「長崎の爆心地から1.8kmで原爆症死者一人も出さなかった秋月医師の食事療法について」国際親善と理解活動FWATの会、コリエンテ、青森
- 3、2011年6月17日（金）「福島をめぐる5つの話題：①長崎で原爆症死者を一人も出さなかった秋月医師の食事療法、②岡村行信博士の貞観津波に関する実地調査、③ベントによる放射能は海側に出る筈だった、④崩壊熱電池について、⑤これまでに環境中に出された人工放射能」青い森・科学BBL、リッチモンドホテル、青森
- 4、2011年6月22日（水）「六ヶ所村と宇宙」読み聴かせ、六ヶ所村立泊小学校6学年、六ヶ所
- 5、2011年8月22日（月）「下北半島から福島県をみつめる」～私たちがこれからできること～、保健協力員合同学習会、むつ市役所大会議室、むつ
- 6、2011年8月23日（火）「ゼオライトによる日本酒からのエタノール発泡」実験、「放射線の正しい理解と被災地の視察から支援出来ることは何か」事前研修会、日本原燃PRセンター会議室、六ヶ所
- 7、2011年8月29日（月）寺田寅彦「線香花火」読み聴かせ、六ヶ所村立泊小学校6学年、六ヶ所
- 8、2011年10月1日（土）青森県「生涯学習フェア2011」青い森・科学」BBL科学教室 放射線情報コーナー、青森県総合社会教育センター第5研修室、青森
- 9、2012年1月22日（日）「六ヶ所村等、原子力立地地域における復興の考え方」日本女性科学者の会 新春懇談会「東北地方における震災復興」、アルカディア市ヶ谷、東京
- 10、2012年3月11日（日）「数野美つ子先生と六ヶ所村」、日本女性科学者の会・東邦大学理学部基礎物理学教室、日本女性技術者フォーラム共催、数野美つ子先生を偲ぶ会、学士会館、東京
- 11、2012年3月25日（日）「調理法から見た食の安全について」泊地区保健協力員放射線測定教室、泊地区集会所、六ヶ所

B 新年会：

日時：2012年1月7日（日）

場所：仙台市、アエル6階、セミナー室1B

出席：7名

編集：山口 陽子・猪俣 芳栄

小杉 尚子・石野 知子

発行所：日本女性科学者の会 ©

事務局：〒160-0015

東京都新宿区大京町 13-15-203

慶應義塾大学医学部 大倉気付

TEL/FAX 03-6802-6708

XI. 第17回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプションと総会風景

